

平成 26 年度 安全工学会 北川学術賞

受賞者 佐藤 研二 氏

選考理由

佐藤研二氏は、1979 年東京大学大学院工学系研究科航空学専攻博士課程を単位取得満期退学され、東京大学工学部総合試験所助手を経て、1983 年東邦大学理学部物理学科講師として採用され、1990 年に助教授、1999 年に教授に就任され、その後 2005 年からは同学部生命圏環境科学科教授としてエネルギー通論、安全学などについて教鞭を執られています。この間、1980 年には東京大学から工学博士の学位を取得されました。

同氏は、燃焼学を専門とし、特に火災・爆発などの災害に関連の深い燃焼現象に関して研究を行ってきました。主な研究としては、火炎あるいはくん焼による可燃性固体の燃え広がり時の燃焼帯の構造と挙動、金属の燃焼現象、予混合火炎の構造と火炎伝ば挙動、ガス爆発時の火炎挙動と圧力挙動の研究が挙げられます。これらの研究成果は、国内外で論文などとして発表され、1996 年には可燃性固体の燃え広がりに関する一連の研究が評価され日本火災学会賞を受賞されています。基本的な現象に関する研究で得られた成果、知見を基盤とし、火災安全、物質安全、エネルギー安全などに関わる調査、開発などについても貢献をされています。

研究教育活動と平行して学会活動も活発に行い、安全工学会理事、日本学術会議人間と工学研究連絡委員会委員、日本火災学会理事および会長、日本燃焼学会の調査研究委員会委員などを歴任されています。日本火災学会編火災便覧第 3 版の編集においては編集委員総括幹事として活動されるなど、火災安全の学術に関わる知識の普及にも携わられました。

また、経済産業省、総務省消防庁、高圧ガス保安協会、労働安全衛生総合研究所、日本消防設備安全センター、日本建築センター、エネルギー総合工学研究所、石油エネルギー技術センター、日本自動車研究所、廃棄物研究財団、製品評価技術基盤機構、日本高速道路保有・返済機構などの安全関係の委員会の委員をはじめ、社会的活動にも貢献されています。

安全工学会においては、2002 年度から現在に至るまで会誌「安全工学」の編集委員を務められ、論文賞選考委員会委員、安全工学セミナーの講師も務められるなど、安全工学の振興のために貢献されてきました。2002 年からの 4 年間と 2010 年からの 4 年間は理事を務められ、その間 NPO 法人化前後の 2004 年からの 2 年間は会誌の編集委員会委員長も務められタイムリーな話題の記事の掲載の推進を図られました。

このように、同氏の安全に関する研究活動、学会活動、社会的活動は、安全工学会北川学術賞にふさわしいものであります。

受賞者 佐藤 研二 氏

1973 年 3 月 茨城大学工学部卒業

1975 年 3 月 茨城大学大学院工学研究科修士課程修了

1979 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科博士課程単位取得満期退学

1980 年 4 月 東京大学工学部助手

1980 年 7 月 工学博士（東京大学）

1983 年 4 月 東邦大学理学部講師

1990 年 4 月 東邦大学理学部助教授

1999 年 4 月 東邦大学理学部教授

現在に至る